

山林をまとめて整備 森林施業の集約化

組合では積極的に推進しています。



広大な山林も所有は細分化

当組合管内には榛名山麓や里見丘陵から鳥川上流域にかけて広大な山林が広がっています。また、スギやヒノキなどの人工林も数多く分布しており、木材としての蓄積も大きなものとなっています。しかししながら、実際に山林内に入つてみると細かく所有者が分かれています。境界についてもはつきりと分かれています。箇所が数多く存在します。

一体的整備の取り組み

森林組合では一定の区域内の山林について調査して所有者や位置を特定し、それぞれの山林を集約化して一體的に森林整備を行う集約化施業に取り組んでいます。施業については、主にスギやヒノキの人工林の間伐作業が中心となっています。

さまざまな集約化の手法

組合では山林を集約化して五年の施業の計画を立て、主に搬出間伐（木材を伐り出して販売する間伐）を中心に施業を実施しています。このほか、県や市が主体とな

組合からの提案にご協力を

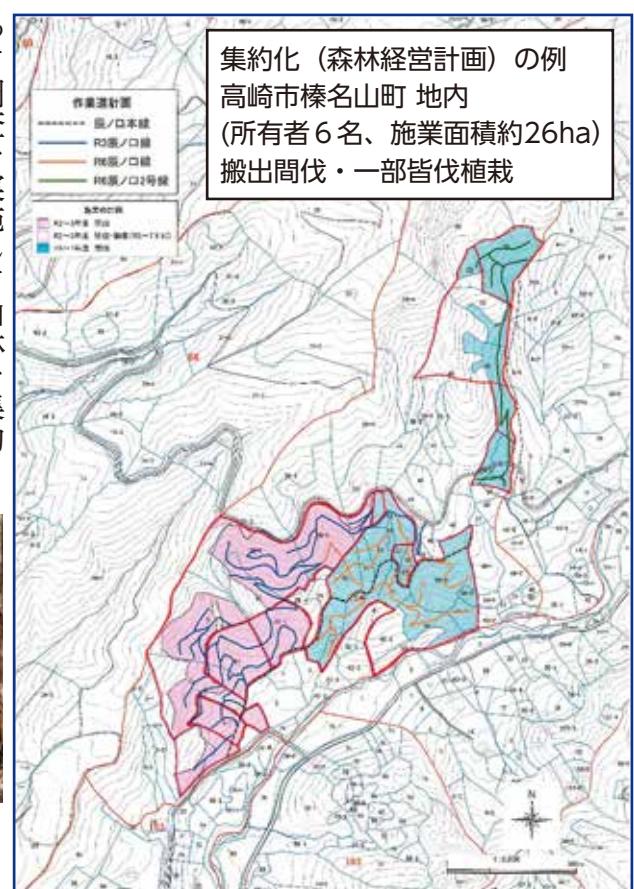
集約化や森林整備施業の実施についてはさまざまなものがあります。事業により実施方法や管理方法が異なりますので詳しくは組合担当職員にお問い合わせください。また、集約化について組合から提案させていただいた際にはぜひご協力ください。



集約化して実施した保育間伐の状況
(県実施請負事業：箕郷町地内
ぐんま緑の県民基金水源林機能
増進事業)



間伐作業の様子



所有者ごとに施業地をとりまとめ、年度ごとに搬出間伐の計画を立て実行します。(色分けは年度、赤青線は所有者界)